

RARP おける術中エコーを用いた頸部処理の考察

済生会熊本病院では、医学の発展のため患者さんの診療情報等を使用し、本研究を実施しております。ご質問や利用停止等のお申し出は、「問い合わせ先」へご連絡下さい。

研究の目的と方法

ロボット支援根治的前立腺全摘除術（Robot Assisted Radical Prostatectomy、以下 RARP）における膀胱頸部処理は、術後尿失禁を減らす観点から、頸部を温存することが望ましいとされています。しかし、前立腺のサイズや術前療法の有無など、症例によるバリエーション多岐にわたり、最も難しいステップの一つです。

今回、術中エコーを用いた症例経験をまとめ、Detrusor apron をどの部位から切開することがよいかを考察します。診療を通じて得られた情報を使用しますので、新たな検査や調査をお願いすることはありません。

研究の対象となる方

2022 年 10 月～2023 年 1 月に RARP おける術中エコーを用いた症例

使用する情報

患者背景、腹腔鏡エコー画像、術中・術後の前立腺のサイズ、術前 MRI による評価、摘出前立腺重量、手術時間、コンソール時間、出血量

研究予定期間

研究実施許可日～2023 年 4 月 23 日

個人情報の取り扱い

研究情報は、許可された研究者のみが使用します。研究成果を学会等で発表予定ですが、個人が特定されないよう氏名等を削除した情報や集計結果を用いますので、プライバシーは守られます。

[研究の情報管理責任者] 泌尿器科 三上 洋

[当院の個人情報管理責任者] 院長 中尾浩一

研究への協力について

研究目的にご自身の診療情報等を利用されることを希望されない場合は、研究対象とせず、利用を停止すると共に、収集した情報等も可能な限り削除します。本研究への協力は患者さん治療とは関係が無く、ご協力いただけない場合も患者さんに不利益が生じることはありません。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、関連資料を閲覧することが出来ます。

問い合わせ先

済生会熊本病院 泌尿器科 三上 洋

住所：熊本市南区近見 5 丁目 3 番 1 号 電話：096-351-8000(代表)